

司式：鮎川 健一

奏楽：堀口 恵美

前奏：「主イエス・キリストよ、み顔を我らに向け」（J.S. バッハ）

招詞：平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。（マタ5:9）

讃美歌：55「人となりたもう神のことば」

交読詩編 67 篇

01 【指揮者によって。伴奏付き。賛歌。歌。】

02 神がわたしたちを憐れみ、祝福し/御顔の輝きを/わたしたちに向けてくださいますように [セラ

03 あなたの道をこの地が知り/御救いをすべての民が知るために。

04 神よ、すべての民が/あなたに感謝をささげますように。すべての民が、こぞって/あなたに感謝をささげますように。

05 諸国の民が喜び祝い、喜び歌いますように/あなたがすべての民を公平に裁き/この地において諸国の民を導かれることを。 [セラ

06 神よ、すべての民が/あなたに感謝をささげますように。すべての民が、こぞって/あなたに感謝をささげますように。

07 大地は作物を実らせました。神、わたしたちの神が/わたしたちを祝福してくださいますように。

08 神がわたしたちを祝福してくださいますように。地の果てに至るまで/すべてのものが神を畏れ敬いますように。

朗読聖書①：イザヤ書 42:1-9

◆主の僕の召命

01 見よ、わたしの僕、わたしが支える者を。わたしが選び、喜び迎える者を。彼の上にわたしの霊は置かれ/彼は国々の裁きを導き出す。

【協会共同訳】見よ、私が支える僕。私の心が喜びとする、私の選んだものを。私は彼に私の霊を授け、彼は諸国民に公正をもたらす。

02 彼は叫ばず、呼ばわらず、声を巷に響かせない。

【協会共同訳】彼は叫ばず、声を上げず、巷にその声を響かせない。

03 傷ついた葦を折ることなく/暗くなってゆく灯心を消すことなく/裁きを導き出して、確かなものとする。

【協会共同訳】傷ついた葦を折らず、くすぶる灯心の灯を消さず、忠実に公正を確立する。

04 暗くなることも、傷つき果てることもない/この地に裁きを置くときまでは。島々は彼の教えを待ち望む。

【協会共同訳】彼は衰えず、押し潰されず、ついには、地に公正を確立する。島々は彼の教えを待ち望む。

05 主である神はこう言われる。神は天を創造して、これを広げ/地とそこに生ずるものを繰り広げ/その上に住む人々に息を与え/そこを歩く者に霊を与えられる。

【協会共同訳】天を創造し、これを延べ、地とそこから生ずるものを広げ、その上に住む民に息を与え、その中を歩む者に霊を授けられる方、主である神はこう言われる。

06 主であるわたしは、恵みをもってあなたを呼び/あなたの手を取った。民の契約、諸国の光として/あなたを形づくり、あなたを立てた。

【協会共同訳】主である私は義をもってあなたを呼び、あなたの手を取り、あなたを守り、あなたを国民の契約とし、諸国民の光とした。

07 見ることのできない目を開き/捕らわれ人をその枷から/闇に住む人をその牢獄から救い出すために。

【協会共同訳】目が見えない人の目を開き、捕らわれた人を牢獄から、闇に住む者を獄屋から連れ出すためである。

08 わたしは主、これがわたしの名。わたしは栄光をほかの神に渡さず/わたしの栄光を偶像に与えることはしない。

【協会共同訳】私は主、これが私の名、私の栄光を他の者に、私の誉れを偶像に与えることはない。

09 見よ、初めのことは成就した。新しいことをわたしは告げよう。それが芽生えてくる前に/わたしはあなたたちにそれを聞かせよう。

【協会共同訳】見よ、先にあったことは実現した。そこで、私は新しいことを告げよう。それが起こる前に、私はあなた方に聞かせよう。

朗読聖書②：マタイによる福音書 5:13-16

◆地の塩、世の光

13 「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。

14 あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。

15 また、ともし火をともして灯の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。

16 そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

祈祷

全てを造られ、ご支配なさる天の父なる御神さま、聖名を褒め称えます。

あなたは永遠の契約の血による大牧者であられ、キリストを死者の中から引き揚げられ給いし平和の神であられます。今朝、夫々に、主の恵みを受け、この礼拝堂で、またライブ配信にて、時を同じくして、夫々の場にて、御言葉に聴き、祈りと賛美を献げる幸いに感謝致します。

8月の歩みに主の御力が豊かに顕され、宣教の業が進められますように。

私たちは、あなたの真理と平和の中に住まうよう招かれています。それは御子イエス・キリストの命によって、私たちは繰り返し主の下にあつて力を得、生きる希望へと導かれます。この導きにより、私たちは困難な日々にあつても喜びを抱き、上を仰ぎ見つつ、あなたを賛美、礼拝する者です。どうか主の平和に生きる者となりますように。

詩編の作者は告白します。

平和のうちに身を横たえ、わたしは眠ります。主よ、あなただけが、確かに、わたしをここに住まわせてくださるのです。（詩3:9）

しかし、この願いにありつつも、思い起こす日々は、主の御心から遠くあつたことを覚え、心から改めて悔い改めを申し上げます。主の御赦しの内にありますように。またこの時期には、特に歴史を顧み中、様々な思いが募ります。その中で、人の歩みは主の思いから離れ、福音の真理から遠く離れていることも思います。国家の利益により、歴史に学ぶことなく、なお、戦乱、混乱の罪にあるこの世界です。多くの過ちを犯してきた出来事の中で、様々に犠牲を強いられ、今も深く心に、また体に傷を負っている方々がおられます。どうか、主の大いなる癒しの御手によって心の内に平安が訪れ、真の救いへと導かれますように。

また先週には、九州東部をはじめ、神奈川県西部の広範囲に震災の被害もありました。各地で興っている災害から、一人ひとりがあなたによって守られますように。またそのような中にあつて、世界各地にある国々の政

治指導者たちに、主なる神の真理、正義と平和、また互いに愛する心を呼び覚ましてください。真の権威を持つ主なる神を畏れ敬う者としてありますように。キリストの平和の内にありますように。先んじて主の恵みを与えられているキリスト教会は、また主を信ずる信仰に歩む人々が、主の御業の証しを世界の至る所で伝えられますように。どうか教会に連なる一人ひとりを導き、あなたの御力に、より頼む福音宣教の業に勤しむことが出来ますように。この世界に主の平安の慰め、祝福がありますように。共に主を見上げ、主の平和に生きる者となりますように。

これより語られる御言葉が主の御霊の導きを豊かに受けて届けられますように。また聴く私たちの心に深く備えられ、ここから遣わされて行きますように。主の定めた終わりの日が来る時まで主の御国を待ち望みつつ、主の平和を祈り続ける諸教会、この世界に生きる信仰の友の祈りと共に、尊き主の聖名によって御前にお献げいたします。アーメン。

讚美歌:402「いともとうとき」

説教「地の塩、世の光」

佃 雅之

「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である。」

この御言葉は、「キリストが弟子の本質を語られた言葉だ」と言われています。「弟子とは何か?」「弟子であるということはどういうことか?」「地の塩」、「世の光」という言葉を用いて明らかにされます。「塩」も「光」も私たちに人間にとって、生きる者にとって無くてはならない、欠けてはならない不可欠な物であります。弟子たちは、神によってこの世から選び出され、この世に派遣された者たちですから、この地上で、この地上に生きる人たちと関わり合いながら生きていく存在です。

「あなたがたは地の塩である」とキリストは語り出されます。「塩」とは何か? どのような役目があるのか? よく知られています「塩」の働きには、食べ物を腐らせない保存するための働きがあります。また旧約聖書の時代には、清めのために神殿に献げる物には塩を添えることが定められていました(「塩の契約」レビ2:13)。このことから「地の塩」という言葉には、「悪に満ちたこの世界にあってキリストの弟子となった者は、この世の腐敗を止める役割がある、私たちの生活から悪を遠ざける力を持つ」ことを意味していると言われます。しかし、何と言っても「塩」の最大の特徴は、「食べ物に味をつける」ことにあります。味付けの基本です。ほんのひとつまみの塩が料理の味を決めます。塩加減によって、その料理は味をすっかり変えてしまいます。「地の塩」であるキリストの弟子は、「誰かの人生を変え得る、出逢う人の生き方を変えるという役割を担う者である」と言えます。但し、ここで注意が必要なことがあります。「塩はその姿を失うことによって塩気を発揮する」というものであるということです。「塩」が目立ってはいけません。「塩」が主張し過ぎると全ての物の味は消えてしまいます。それどころか、塩が多すぎればとても食べられない。「少量をもって素材の味を引き出す」、これが「塩」の役目です。キリストは、「あなたがたは地の塩である」と言われていますから、私たちは「自分の思いや願いを主張し過ぎることなく、相手の良さを引き出すために、寄り添い、相手を活かす」、「塩」は「自らの体を融かして、自らを相手に献げたときに味を滲み込ませることが出来る」ものです。

ここで、一つの警告が与えられております。

「だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。」

私たちは「地の塩」とさせて載っています。しかし「塩気がなくなる」ということがある。「塩」に「塩気がなくなる」ということは、どのようなことでしょうか。

この当時のユダヤで使われている「塩」は、「砂漠の畔にある、夏には干上がってしまう小さな湖から届けられたもの」と言われています。届けられた「塩」には、砂が混じっていて、とてもそのままでは使い物にならなかったそうです。しかし、多くの貧しい民衆は日常そのような「塩」を使っていました。テーブルの上に砂混じりの塩が入った器が置かれ、使うときには指で揉んで砂を落として指先に残った塩をかけるのです。それを続けていると、やがて器には砂だけが残って外に投げ捨てられる。「塩が塩気を失う」というのは、多くの家庭の日常の光景を譬えて語った言葉です。

弟子として戴いたにも拘らず、その使命を果たさない者は塩気が無くなった塩と同じように外に投げ捨てられることになる、滅ぼされる、ということでしょう。私たちは、今、日々生きている、その場所で、会社で、職場で、社会で、家庭で、「周りの人たちの人生に味をつける一つまみの塩」でなければなりません。

キリストは続けて、「あなたがたは世の光である」と言われました。私たちは主から戴いた「光」を隠すのではなく、輝いていることが大切だということです。キリストの弟子は希望のない暗いこの世界を明るく照らす、人々に生きる喜びと、希望の光を与える神の働きに参与することが弟子の役目です。「生活のあらゆる場面において、私たちに与えられた信仰が明らかに示されなければならない」ということです。

「また、ともし火をともして灯の下に置く者はいない。燭台の上に置く。」と言われております。「私たちはこの世で光り輝いていないなら意味がない」からです。しかしキリストが「ともし火」と言われているのですから、その炎は目を刺すような眩しい光ではありません。肌を焦がすような光ではないのです。小さな、小さな光で充分なのです。光が「燭台の上に」あるなら、たとえ小さな明かりでも家中を照らすことが出来ます。その「ともし火」のように、「あなたに与えられた光を人の前で輝かせなさい」と主は言われるのです。「隠れていないで出て来なさい」という主の呼びかけです。

ここにも一つの忠告を見ることが出来ます。キリストは、「あなたがたは世の光である」と言われました。この言葉には、「あなた方は教会の中に籠ってはいけません」。私たちの役目は、「教会の中だけを明るくすることではない」という意味が込められています。教会の中でだけ信仰者のように振舞っても駄目なのです。キリストは、「あなた方は教会の光である」とは言わず、「世の光である」と言われています。家庭で、職場で、働いている時も、電車に乗っている時も、買い物をしている時も、常にキリストの光を放っていないと意味がありません。教会の中だけの信仰であるならキリストの弟子とは言えないのです。

「光」が必要なのは、この世界が暗闇に包まれているからでしょう。暗闇の特徴は見えないことです。暗闇は恐ろしいものです。しかしこの世界の多くの人は暗闇の中に居るにも拘らず、そのことに気付いていません。最も恐ろしいのは、本当に必要なことが見えていない、神を見ようとしないう霊的な暗闇です。神を神とせず、神に逆らい続けてきた人は「神など必要ない。教会は弱い人間が集まる所だ」と思われている方も居るかも知れません。歪んだ捉え方をされ真実を知らないままに冷やかやかな扱いをされることもあります。しかし、私たちが「世の光」として小さな光を放つとき、暗闇から

多くの人を導き出すことが出来るのです。私たちは、「あなたがたは世の光である」という主の呼びかけに応えなければならない者としてこの世に存在しているということです。

私たち人間は自分の力で輝くことは出来ません。自分の力で光を放つことは出来ません。私たちが為すべきことは、“わたしは世の光である”と語ってくださる方の真の光を受けて、その光を放つことです。“塩は、その特性を発揮するために自らの姿を隠す、「光」はその姿を隠してはならない”。ここでキリストの語られる弟子の本質は、一見、全く、その特性が違うようにも思えます。しかし、「光」もまた、本来の目的は、“自分を目立たせるためではなく、周りを照らす”ことにあります。“塩も「光」も、どちらもその目的、その使命は、自らの言葉と行いで周囲の人に神を指し示す”ことにあります。

16 節に「人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである」と書かれています。“わたしが立派な行いをして、わたしを見た人が天の父なる神を崇めるようになる”、この言葉を聴くと、“私には無理だなあ!”と思う人が少なくないと思います。ここで「立派な」と訳されている言葉は「カロス καλός」というギリシャ語で、新約聖書の中に 100 回以上使われている言葉です。「よい、よしい、美しい、心地いい…」広い意味があります。ここでキリストが言われる「立派な」というのは、大袈裟なことではなく、人があなたを見て、“いいなあ!” “素敵だなあ!”と思う“何か”です。“心がほっと温まるような、心地よく穏やかな、慰め励ましを感じる”、“何か”であります。「立派な行い」と言われると、怯んでしまうかも知れませんが、人から見て、“いいなあ!”と思う“何か”であれば、私たちにも出来ることのあるのではないのでしょうか。「塩」を味わうにしても、“この隠し味は、この旨味は、素材を引き立たせているものはなんだろう? ”、あるいは「光」であるなら、“この穏やかで暖かな光は何だろう?”と思わせる、それが地上での、この世での“弟子の役割”だということです。

一つ具体的な例を挙げるなら、今、私たちが献げている【礼拝】です。“イエス・キリストの名によって献げられる礼拝こそ、人々が、私たちが天の父を崇めるようになるように為される私たちのよい行い”であります。礼拝を献げている私たちの姿こそ、この世の人たちから、“いいなあ!” “美しいなあ!”と見られるものであります。初めて教会に来られた方に見て戴きたいものは、建物や消息ではなく、礼拝者の姿です。“礼拝者の姿が人目に美しく映るのは、その時、私たちが神を仰ぎ見て、神を第一としている姿であるから”です。

今日は旧約からイザヤ書 42 章の冒頭を読みました。神は初めに“見よ(見よ! (開投詞))”と書かれています。“何を見るのか?”神が支え、神が喜び、神が霊を授けた“わたしの僕(エベド(עֶבֶד))”を“見よ!”と書かれています。“キリストのこと”です。そして、“キリストの弟子となった者たちのこと”でしょう。2 節以下には「主の僕」がどのような者であるかが書かれています。「主の僕」は、柔和で目立たないように静かに主の業を行います。「傷ついた葦を折ることなく、暗くなってゆく灯心を消すことなく、裁きを導き出して、確かなものとする。」と書かれています。「傷ついた葦」、「暗くなってゆく灯心」というのは、“最も弱い者”の象徴です。「主の僕」には、神の支え、喜びと霊が無限に注がれているから、弱い者を傷つけない優しさと思いやりを持っています。「消えそうな灯心」を放っては置かず、再び燃え上がる事が出来るように励ますことが出来ます。しかし、主の言われる“優しさ、思いやり”というものは、私たちが感じることは違いがあります。

7 節、「見ることでできない目を開き、捕らわれ人をその枷から、闇に住む人をその牢

獄から救い出すために」と主は言われています。主の言われる“優しさ、思いやり”とは、“見えない目を開いて、闇の牢獄から救い出す”ことです。うわべの優しさや思いやりは御心に適いません。「主の僕」の務めは、見せかけの一次的な救いではないのです。

今朝、山上のキリストから「あなたがたは地の塩である。」「あなたがたは世の光である。」と呼びかけられ、語り掛けられた私たちは何を感じたのでしょうか? 「地の塩」「世の光」という言葉の意味を知れば知るほど、“私にはふさわしくない”と思われた方が多いと思います。私たち罪人には厳しすぎる言葉だと思えたことでしょうか。しかし、主キリストはここで、“あなた方は塩になれ、光になれ”とは言われていません。「地の塩である」「世の光である」と言っておられます。命令ではなく断言です。キリストは、この言葉を将来のこととしてではなく、現在、既に、そうである事実として語っています。私たちは、もう既に、キリストによって「地の塩」、「世の光」として戴いているのです。

キリストは神であられたのにご自分を無にして、神に対する私たちの負債の一切を負ってくださいました。私たちが償わなければならない償いを担い、十字架に着いてくださいました。私たちは、このキリストの血によって、もう既に、神の前に、汚れ無き者にさせていただき、キリストの香りを纏わせていただいています。私は「地の塩」になれるだろうか? 「世の光」として生きる資格があるだろうか? そのような力があるだろうかと心配する必要も悩む必要もありません。主キリストは私たちに資格や力を求めはしません。私たちが神を仰ぎ見て、神を第一とするなら、私たちに注がれ宿ってくださった聖霊が、私たちがキリストの弟子として相応しく動かしてくださいます。「地の塩」として働いてくださるのは、「世の光」として輝くのは、私たちの中に宿ってくださっているキリストであります。

お祈りを致します。

聖なる神、あなたは常に私たちを愛して、私たちの名を呼び続けてくださっています。あなたの深い憐れみと慈しみに心から感謝致します。

御子イエス・キリストの贖いの御業のゆえに、私たちは、もう、既に、あなたの弟子とされていますことを心から喜びます。どうぞ、私たち一人ひとりを、「地の塩」として、「世の光」として、用いてください。

真の光であるキリストを、私たちがこの体によって顕すことが出来ますように、聖霊が豊かに私たちに臨み、あなたの御栄光を表すものとならせてください。

私たちの救い主、イエス・キリストの聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌: 411「うたがよい迷いの」

献金・感謝の祈り(萩原孝博)・主の祈り

ご在天の父なる神さま、聖名を賛美致します。今朝は、あなたの御前に、またライブ配信を通して、兄弟姉妹と共に礼拝を献げることが出来ました。感謝致します。どうぞ、あなたに賛美と栄光がありますようにお祈りいたします。

今朝は佃先生のお口を通して豊かな御言葉を与えられました。感謝致します。私たちは、あなたを仰ぎ見つつ、この世を歩む者ですが、どうぞ、「地の塩」、「世の光」として、あなたに守られつつ歩むことが出来ますようにお願い致します。

酷暑の最中、また多くの災害によって苦しみ傷ついております者が沢山居りますが、どうぞ、あなたによって癒しが与えられますように、シャーロームがありますように、お願い致します。

私たちは、あなたより豊かな宝を与えられておりますが、その一部を、あなたの御前にお献げ致します。どうぞ、教会の御用のために用いてくださいますように、お願い致します。

あなたが弟子を通して教えられた「主の祈り」をもって、一巡りの歩みを歩ませてください。「主の祈り」…アーメン。

派遣：讃美歌91「神の恵みゆたかに受け」

祝福：主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告：なし。

後奏：「われ汝を呼ぶ、主イエス・キリストよ」（J.L.クレプス）